

お祖師さまをお訪ねする物語

第15回



高祖日蓮大士ご降誕 800年慶讃

文永元年（二二六四）九月、お祖師さま（高祖日蓮大士）は、およそ十年振りに鎌倉（神奈川県）でのご奉公から、故郷の房州（安房国・千葉県）にお戻りになられたんだ。今回は、お母さん（名前は梅菊）の「蘇生（二度死んだ人間が再び生命を取り戻すこと）」のお話と「妙覚寺」の建立（お寺をたてること）のお話をするね。

母の蘇生と妙覚寺

なつかしい故郷に帰ってこられたお祖師さまは、早速（すぐ）わが家を訪ねてみると、一年ぐらい病気で寝込んでいたお母さんが、ちょうど息を引取られた（亡くなられた）ところだったんだよ。

毎日、御題目のご信心を弘めるご奉公で忙しく過ごされていたお祖師さまは、お母さんの臨終（今にも死ぬという時。死にぎわ）に間に合わなかったことを、とても悲しまれたんだ。

そこで、お祖師さまはお母さんに蘇生してもらおうと、一心に御題目をお唱えし、御供水をお母さんの口に含ませたんだね。すると、不思議なことにお母さんが息を吹き返し、お目を開けられ、お祖師さまと一緒に御題目をお唱えされたんだよ。

お母さんは、その後、四年間ほど元気に



お祖師さまが一心に御題目をお唱えしたところ、お母上（梅菊）は息を吹き返し元気になられた

お過ごしになったんだけど、文永四年（二二六七）八月十五日にお亡くなりになったんだ。

お祖師さまが、一心に御題目をお唱えしご祈願（神や仏に願いをこめて祈ること）をしたところ、お母さんが息を吹き返したという話は、たちまち人々の口から口へと伝わったんだね。

妙覚寺

その不思議な話は、興津（千葉県勝浦市）の領主（領土の持ち主）・佐久間兵庫頭重貞にも伝わり、領地にあった御堂（仏を安置した堂）にお祖師さまは招待されたんだよ。この御堂で十日間（文永元年十月十五日から二十四日まで）、お祖師さまは、領主の重貞や家来の人たちに、御題目のご信



広栄山妙覚寺（千葉県勝浦市興津1195-1）山号は「広栄山」で、領主・佐久間重貞の長男・長寿麿が後、日保上人となり、お祖師さまを開祖として建立したものだ。

心のお話をされたんだね。

すると、領主の重貞は、お祖師さまに深く帰依（僧などのすぐれた者を信じ、その者にすぎること）し、御堂を寄進（神社やお寺にお金や物を寄付すること）したんだよ。その御堂をお祖師さまは「広栄山妙覚寺」と名付けられたんだ。

翌年の文永二年（二二六五）、興津の港の付近に、疫病（はやりやまい。伝染病）が流行し、村人たちを苦しめたんだ。領主・重貞が、お祖師さまにご祈願をお願いすると、お祖師さまは、白い布に南無妙法蓮華経と御題目をお書きになり、その布を船の後ろに結びつけ、布を曳きつつ（引きながら）御題目をお唱えされたんだ。するとたちまち、疫病が治まったと伝えられているんだよ。

その後、領主・重貞は、長男の長寿麿（後の美作房日保）をお祖師さまの弟子として出家（僧になること）させ、また重貞の弟の竹寿麿（後の寂日房日家）も出家したんだね。

こんな風にしてお祖師さまは、故郷・房州の人々を御題目で救い、ご信心を弘めていかれたんだ。



布曳きの祖師（妙覚寺・文化財）興津の港の付近の疫病を治めた時のお祖師さまの姿を彫刻した尊像は、いつしか「布曳きの祖師」と称されるようになった



妙日山妙蓮寺へ続く参道入口（お祖師さまの両親の墓所）父は正嘉二年（1258年）2月14日、母は文永4年（1267年）8月15日に亡くなられ、この地に葬られている。父「妙日」、母「妙蓮」の法名にちなんで、「妙日山妙蓮寺」と称し、両親の墓所ということから「両親閣」として広く知られている

